

## 【林業分野】地域の団体・事業者との意見交換会概要

区分	実施日	地域団体等参加者数（人）				計
		森林 組合	川上 （素材生産）	川中・川下 （加工流通）	その他 （林産・JA）	
①安芸地域	R元.7.30	3	2	2	2	9
②中央東地域	R元.8.2	3	2	1	0	6
③嶺北地域	R元.7.31	4	4	2	1	11
④中央西地域	R元.7.25	2	5	1	1	9
⑤須崎地域	R元.7.25	4	1	4		9
⑥幡多地域	R元.8.1	7	1	3	1	12
計		23	15	13	6	56

**1 地域の現状と課題の確認**(1) 川上（増産・造林）

○皆伐しても山主の収入は少なく、植え付けに対しては100%補助されるものもあるが、管理費や下刈り経費については所有者負担が生じるため、再造林が進まない。〈嶺北〉

○山の価値が下がったため、森林所有者から事業体を買ってもらいたいとの話が最近多い。保安林は再造林を行う義務もあり、買入れは避けたい。〈安芸、中央西、須崎〉

○再造林や下刈りの労働環境が大きな問題。下刈りなどは作業が夏場であり、特に20代は2～3年で離職する者が出てくる。〈中央西〉

○森林所有者の山への関心が少なく相続登記も放置され、所有者も境界が分かっていないため、事業をする際の境界確定に手間が係っている。〈嶺北、中央西〉

○搬出用の道がないため、事業地はあっても搬出や皆伐につながらないケースがある。〈中央西、須崎〉

○若者の就業を促すためには、機械化も必要であるため、機械の導入を行い、定着率を上げていきたい。〈須崎、幡多〉

(2) 川中（製材加工・バイオマス）

○木質バイオマスボイラーが耐用年数を迎えているが、現在の燃料価格では更新は難しい状況。〈安芸〉

(3) 川下（流通・販売）

○山側の丸太が太くなっており、大径木を挽く機械を導入していく必要がある。〈嶺北〉

○木材の安定供給、安定価格の維持について、時期などで変動しない市場流通の確立がなければ製材は安定した経営はできない。リスクをどこが持ちサプライチェーンマネジメントを進めるかが課題。〈中央西〉

(4) 担い手育成

○造林の植え付けや下刈り業務に対応する担い手が足りていない。搬出する作業員も造林を手伝っているため増産に支障もある。今後、皆伐が増えると再造林や下刈りに一層人手をとられる。〈嶺北〉

○製材は求人を出しているが新規で若い人材が来ない。また、森林組合の事務職員の確保も課題。〈中央東、須崎、幡多〉

○地元が協力して、教育委員会と連携して小中学生向けの林業教室を去年から実施している。〈須崎〉

- 就労にあたり困るのは住宅。住宅に対する支援（月2万円）もしている。様々な就労条件を整えることが必要。〈安芸〉
- 同じ作業を続けさせるとストレスが溜まるため、間伐や皆伐等、作業内容を時々入れ替えなければ辞めていく人が出る。〈中央西〉
- 新人のメンタル面のケアが必要。実家があれば良いが、一人暮らしの場合はフォローが重要。〈幡多〉

#### (5) その他（特用林産等）

- 椎茸については、ハウスやトラック等を含め1千万円程度の初期投資が必要であり、かなりの補助がなければ後継者は育たない。〈嶺北〉
- サカキ栽培について、担い手は不足してる。年120~150万円の収入が望めるため、再雇用の場として定年退職者を待つ状況。〈中央西〉
- 製炭について、原木の安定した仕入れが課題であり、原木の安定供給のため、和歌山県の施業を参考にウバメガシの択伐を行っている。また、大月町において、ウバメガシの苗木育成・植栽を進めていきたいと考えている。〈幡多〉

## 2 現在の県産業振興計画の評価

- バイオマス等、林業のエンドユーザーに対する消費の拡大が進み、生産の拡大へとつながっている。〈中央東〉
- 高性能林業機械等の導入支援等により、原木の増産は大幅に増加したと思う。〈幡多〉
- 大型製材工場や木質バイオマス発電所の稼働により、地産の強化は一定の成果が出ている。〈中央東、嶺北、中央西〉
- 補助金等を活用した設備増強により、弊社の丸太処理能力は10年前に比べ20%程度アップしている。今後も手を緩めることなく支援していただきたい。〈須崎〉
- 各分野において、生産量・出荷量の拡大により基礎体力は付いてきたが、現実には、利益の確保が厳しい状況。出口対策や担い手対策等、さらなる体制の強化と充実に努めてほしい。〈安芸〉
- 産業振興計画は、掘り起こしとして非常に効果があった。出口等の振興も手厚い計画がなされていた。〈嶺北〉
- 原木生産量が増加し、CLTやバイオマス等の活用も一定構築されてきたことについては評価できる。〈須崎〉

## 3 県産業振興計画の次のステージに望むこと

### (1) 川上（増産・造林）

- 再造林に対しては100%補助されるものの、手数料や消費税などの所有者負担があり、取り組みが進まない。下刈りも100%補助がないと進まないため、環境税などの活用により支援をお願いしたい。〈須崎、幡多〉
- スギ・ヒノキに代わり、コウヨウザンの植林を進めてはどうか。〈中央西〉
- 木材の需要は増えているが、バルブやバイオマス向けが多くA材の需要が少ないため、木材の搬出経費が厳しい。間伐は補助もあるため事業が進んでいるが、皆伐は難しいため支援が欲しい。〈安芸〉
- ポット苗は重いため、軽い苗木づくりができないか。〈中央西〉
- 架線を張り集材できる人材が高齢化により今後退職し、道路から離れた箇所集材が出来なくなる恐れがあり、支援していく必要があるのではないか。〈中央東〉
- 作業道より高規格な林道等整備をお願いしたい。道が付けば安定的な原木の供給に繋がると考

えている。〈嶺北〉

○町道等が狭く運搬に制約がある現場がある。林道は施策で進んでいるが、途中の市町村道の拡幅が難しい場合は、林道を延ばし、山の反対に繋ぐなどの支援を進めてもらいたい。〈嶺北〉

○道の開設後の管理が問題。維持修繕の費用が重荷であり、市町村に管理をしていただけるとありがたい。〈中央東、須崎〉

○製炭用の原料がないのであれば、伐採後の山にウバメガシの植栽を検討してはどうか。

〈中央東〉

○仕事の効率化を進めていく上で、デジタルデータでの国土調査の地図情報や森林所有者情報を提供いただきたい。〈中央東、中央西〉

○今後、オリンピックもあり、認証材の見直しもある。産業振興計画の中で、市町村を巻き込んで国際認証に取り組んでもらいたい。〈安芸〉

## (2) 川中（製材加工・バイオマス）

○CLTを進めているが、ラミナは県内生産であるが加工は県外となっており、県内で加工できるようにすべき。〈安芸〉

○バイオマス発電施設などを小規模で安く設置し、地産地消を進めてく仕掛けがほしい。

〈中央西〉

○民有林は大径化しているが、38cm以上を挽ける工場が少ないため、対応が必要。〈須崎〉

○県西部において、木材需要の拡大が見込まれる非住宅木造建築分野や、高品質な製材を供給していく施設が必要ではないか。〈幡多〉

## (3)（流通・販売）

○県内の梁桁は、集成材等が多く使われている。施主や工務店における県産材の活用は、漠然と家を建てる時に使いたいという状況。施主に加えて工務店への支援ができないか。〈安芸〉

○大手ハウスメーカーや商社と産地が結びつくことができれば、インプット、アウトプットができる。しっかりとした供給協定が結ばれることが大事。〈中央西〉

○A材の価値を上げなければ、山にも製材にも利益は還らない。〈嶺北、中央西、幡多〉

○土佐材流通促進協議会を活用して、県外の外商が伸びている。今後、商談会の後追い営業などの経費がかかるので、補助支援などをつくって頂きたい。〈須崎〉

## (4) 担い手育成

○賃金を上げなければ危険な林業に来てくれない。賃金の上昇とコスト縮減を進めていく必要がある。〈嶺北〉

○経済団体の中では、大学と連携し高知の中小企業を知る取り組みを進めており、高校生に広げている。もう一步踏み込み、小中学校まで教育分野の連携をして親子に知ってもらうような取り組みをしてもらいたい。〈安芸〉

○林大卒業生の林業技術に関するアドバンテージは未経験者と比較して3ヶ月程度しかないので、現地実習を進めてもらいたい。〈中央東〉

○間伐や下刈りなどを習得し独り立ちするには時間が必要となるため、緑の雇用事業の育成の期間の延長をお願いしたい。〈中央西、須崎〉

○ベトナムから実習生4名に来てもらっているが、1年しか雇用できないため、法整備のプッシュをお願いしたい。〈須崎〉

○外国人労働力は山の作業には入ってきていない。いつでも入れる体制を作っていく必要がある。〈中央東〉

○事業体の経営基盤がしっかりしていないと、雇用が難しく森林整備もできない。例えば、環境税等を活用した事業体強化のような支援はできないか。〈須崎〉

#### (5) その他（特用林産等）

- 地域おこし協力隊が大阪から2人来て支援したが辞めた。教え方も悪かったと思うが、育成への支援体制も必要。〈嶺北〉

#### **4 その他**

- 働き方改革（令和3年から中小企業が対象）に対する林業分野の対応としての、県の考え方（解釈）を示してもらいたい。〈中央東〉
- 補助金なしで事業を実施した際は、利益を出すために工夫することで、伐採技術や造材技術が向上した。今後は、それぞれが技術を上げて行くことが必要。〈幡多〉
- 特用林産の後継者を育てるためには、初期投資が多額となるので、かなりの支援が必要。〈中央西〉